第2112号　（水曜日）

夕刊
いわき民報

発行所
平市田町48　電381 1222
いわき民報社
編集兼印刷発行人　田原　登

いわき民報　夕刊　昭和28年4月8日
昭和24年2月23日 運輸省特別扱承認第283号
日刊 昭和21年6月1日（除月曜）第三種郵便物認可

關内氏に同情集る

三會場とも空前の盛況

緒方副総理を迎えて自由党公認関内正一候補者の個人演説会は六日夜小名浜、湯本公民館で開いた、平市公会堂は都合で自由党大演説会と変更して開催されたが、各会場とも超満員の聴衆で人気は関内候補者に集まり、緒方副総理が解散に至るまでの野党の政権争奪に対する陰謀は民主政治を認識しない民主々義の敵であり、主権者である国民大衆は今こそ民主政治を護る自由党を圧倒的に支持して貰いたいと熱弁を振い、同時に地元出身の関内正一候補を議会に送って欲しいと懇願し関内候補の立候補挨拶があり万雷の如き拍手を浴びて各会場とも関内候補に同情集まり空前の盛況裡に閉会した、翌七日朝は平市七十七銀行前の広場で関内候補と緒方竹虎氏の街頭演説会を開いたが同広場も黒山の人垣を築き熱心に聴取した

終始萬雷の拍手

平市會場

平市は定刻七時、司会の大嶺副議長から『会場の手続きの手違いで関内候補の個人演説は取止めとし自由党演説会に変更した』と挨拶次で多田井市会議員、続いて植田県会議員、県自由党が吉田自由党推選候補を強力に推すことに決定した事情を述べ、緒方副総理は小名浜会場の演説会を終え八時会場に到着、万雷の拍手に迎えられて壇上に立ち約一時間に亘って政府が解散に至るまでの国会の事情を述べ国会の腐敗不明朗を突き今次選挙こそ民主政治が成るかどうかの天下分け目の岐路に立っている点を力説し大要左の如く演説した　続いて木村参議院議員がこれに続いて広川弘禅氏のため吉田首相のもとにとゞまるべく県政界のためにも大竹知事らと強く要望したが遂にいれられなかったいきさつに就いて説明、多大の共鳴を与え午後九時半盛況裡に閉会した

民主政治の擁護へ 陰謀者を取除け

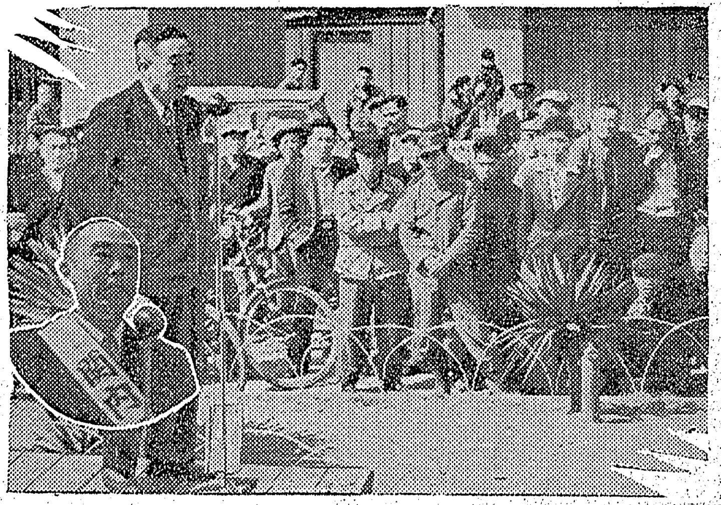
緒方副總理の演説要旨

○…私は日本の民主政治の将来に就いて良く考えてみたのであるがその所懐の一端を述べ皆さんの御批判を仰ぎこの選挙を通じて民主政治の確立に是非お力添えを願いたい、私は永年新聞記者をやっておりましたが主に議会関係の記者として活躍しましたので国会のことに就いては良く知っていた積りでした、ところが第四次吉田内閣が国民の絶対過半数の支持を得て成立し私が官房長官としてその番頭役を命ぜられ野党との折衝に当って来ました経過から見て衆議院の内部の空気というものは凡そ記者生活当時見聞したものとは違うということが判りました、実に不明朗の空気が流れているということであって国民の過半数の支持に基いて出来た政府に対して野党側に常に寛容なる態度で臨むよう要望して来たが、野党は常に政権を奪おうとする倒閣運動にのみ走り陰謀的な手段を弄して政府の立場を認めようとしなかったことである、自由主義の改進党、社会主義の社会党が両派に別れ左社は再軍備反対を叫び改進党は憲法を改正しても再軍備を必要とするといった立場をとって相互に手をにぎれない立場にあるにもかゝわらず二十八年度予算案をめぐってこれらの主義を異にした改進党や社会党が結束して倒閣運動を展開した愚劣さをあえて行ったワケである、この時私は野党三派のこの動きを知って必ず政府不信任案を提出して来るということを予感したので独立第一年の大切な時でもあり吉田首相と相談しもしこれが通過した場合には国会を解散することが立憲的であるとの見地からその態度を決めておったのであります、ところが野党はこれを知って〃それは政府のおどかしで解散するハラなどない〃—と私が警告的に言えばいう程逆に野党の結束が固まって来たのである

○…愈々三月十四日、野党三派による不信任案が出されましたが政府の解散説を疑ってこの時まで野党幹部は〃政府は解散しない〃との流言に惑わされていたというので或外人がおどろき乍ら私に話していた位である、問題は本年度予算案が通らないことによって生ずる国民大衆の迷惑を考えずただ不信任案を出して来たことは倒閣以外の何ものでもなかったのでありまして、政府が当然とるべきことを行ったに対し野党の諸君は今になって解散するとは暴挙であるというのである、どちらが勝手であり暴挙でありましょうか、日本は天皇を象徴として国民に主権がある民主政治制体でありますから民主政府の進退を決めるのは主権者である大衆の意志を通して行われるべきでありましてこれを野党がそのよしあしを決めて色んな策動をもちい取るに足らぬ首相のバカヤロー発言を問題化し懲罰委員会にかけ陰謀的な多数決でできおろす様では民主政治か立派に育成しないと思う

○…日本の国会はいろくな策動や陰謀が行われていますがこれでは国民から信頼を得ることが出来ない、昭和七年犬養首相が横浜で演説し立憲政治は守らねばならないことを主張しました、今では当然の話でありますがその一週間あとに暴徒に刺されて倒れたのであります、その後二・二六事件から満洲事変、支那事変、今次大戦にまで発展してしまったワケでありまして議会から来る悲劇は火をみるより明らかであります、野党の各派は野党の指名は議会に対する認識が足りないのには実におどろいた次第で本年予算案は是非通したかったのであります、それは弾力のある出来の良かったもので国民の負担もきりつめてあり通過しておれば多少とも国民生活にうるおいが出来たと思います、公共事業食糧増産、住宅問題、国民保健はじめ社会福祉事業、中小企業等に対する画期的振興予算であったのである　軍人恩給の復活も戦争の責任を軍人にしわ寄せるやり方はいかんと思っておりますがその九割は職業軍人に非ざる老令、傷病軍人を対象にしているものであります、又一方電産、炭労の大規模ストに就いては労働行為権は尊重せねばならないが公共の福祉も考えある程度制限の必要もあったのであります、また治安確保に就いては政府の責任でありますので警察法の改正も必要であり義務教育学校職員法案もその通りでいずれもが今度の解散によって不成立となったのでありますが、この責任は野党三派の政権争奪、倒閣の結果によるものでありまして実に残念に思っておる次第であります

○…今次総選挙には国会の中からこの陰謀者を一掃することが一大課題であります、民主政治の生命は公明であること、そして単純であって道義の裏付けが必要であることであります、ところが国会の空気は複雑怪奇でどうして不信任案が通過したのか？道義の裏付けが欠けているのには実に困ったものであります、日本の民主政治は以上の三要件が必要で今次選挙にはこの党を考え良く選んでハズかしくない人を出して頂きたい、今度こそが天下分け目の選挙という気がしてなりません



關内氏を應援する緒方副總理　下關内候補

今度落選すれば 政治生命絶つ

小名濱會場で關内候補挨拶

小名浜町の関内候補個人演説会は六日午後七時より第一小学校講堂に開いた、先ず関内正一後援会長比佐政穰氏の開会の挨拶があったのち関内候補の登壇『前回は絶大なご声援にもかゝわらず落選を見たと云うことは誠に申訳ない、今回の立候補に当って前にお当地から示された御後援にそむくことなく頑張る覚悟にありまた今度の選挙で再び落ちるようなことがあれば関内の政治生命はこれをもって終ることにもなりますので皆様の絶大な御支援をお願いします』と挨拶があり続いて緒方副総理から時局講演があって小野県議、日本消防協会大河原理事、木村参院議員よりそれぞれ石城から関内を国会へ送れと訴え菅原町議より閉会の辞をのべ八時半ごろ終了したが会場には約八百名の聴衆がつめ掛け盛会だった

競輪の恩人は 關内元代議士

磐毎のウソ記事を反駁

常磐毎日が輝く高木前代議士の功績と題して六日附新聞に平競輪の恩人は高木氏だとホメた上、関内代議士は少しも役立たなかったと書いている、ウソを書くのも此処まで徹底すれば気は楽であろう、この間も小川村予算村会で満場一致高木氏を推すことに決定したと大ウソを書いている、村会や市会でそんな馬鹿な決議が出来ないことは少しでも知識のあるものならすぐ判ることである

競輪の恩人は前鈴木市長であることは間違いないが、また同時に関内正一氏の功績であったことも事実である、高木氏こそ此の問題をどうすることも出来なかったのである、高木氏が故辰三郎市長に頼まれて関係当局を何べん廻って頭を下げても相手にされず認可にならない、競輪騒動が各地にぼつ発していた矢先でもあり且つ競輪場の工事に着手したがカンジンの認可が下りない、剛腹な辰三郎市長も遂に関内代議士に頭を下げて何んとか認可を取って下さいと願ったのである、その時関内氏を訪れた人は大塚、水竹、永野、石山の各市議で市会満場一致の競輪建設の決議書を持参したのである、関内氏はトバク行為である競輪は大嫌いであるが市会が満場一致で決議している以上個人の感情でこの願を拒絶するとは民主々義政治に反するという見地から〃よし引受けた〃と胸をポンとたゝいてこの解決に乗り出したのである、関内さんは大野伴睦先生とじっこんの間柄なので同先生を訪れこの話をすると早速二人は関係当局を訪れて折衝した結果、すぐに認可されたのである、かくて競輪は今日の隆盛を見るに至ったのであるがこの一事をもって見ても高木氏と関内氏の政治的手腕に格段の差があることがすぐに判るのである、関内氏は人格高潔でこんな自慢話しの宣伝などをしない当代稀に見る奥床しい人材であり、何等の功績のない高木氏を功労者の如く吹聴する磐毎は読者からひんしゅくされている

天氣予報

（七日）

【今晩】北よりの風晴の天気
【明日】北東の風始めは晴後曇りことにより遅くなって小雨模様海上今晩明日とも北東の風多少風波が出る見込み

津上ミシン
鈴木ミシン商會
平市五丁目二一（電一〇九八）

出雲大社正遷宮祭参拝旅行團募集
▼時　五月十二日—十七日六日間▼会費　七〇〇〇円
▼経路　東京—出雲一泊（勅使参向見学歓迎演芸大会）—大阪—京都一泊—奈良—京都—東京解散
▼主催　東京都港区麻布霞町一出雲大社東京分祠奉讃会
▼申込所　湯本町三函三二温泉神社内苑出雲大社教磐城支部事務所電話七番▼詳細は申込所にてお問合せ下さい
▼〆切四月末日

壽司　とんかつ
☆花見折詰百円より
仲田町
新富
電292

御入學 進級の記念に…
正確な
誠光堂の腕時計を
平市銀座通　電一四九六

紹
たのしい生活は
正しい利殖から
御投資・壱萬圓以上
配当・毎月五分
期間・三カ月以上
（案内書呈）
ぜひ一度御來店下さい
本社・東京都千代田區神田司町一ノ十三
千代田經濟株式會社
平營業所　平市新川町電1288

〽れとしぶひく紅ざくら
たれにこがれて松ヶ岡
忍ぶあの娘れ
結はがさに
花がちるく　紅の散る
新座敷改築　心地よい大広間
公園　山之紀和
電二二六

お花見に
折詰料理
御注文により調製致します
特製
フルーツポンチ
サンドウイッチ
友
春の味覺
みつ豆
あん蜜
平四
マルトモ
食堂　デンワ570

◇開店披露◇
開店御披露として
四月三日より一週間
一割引の大サービス
を致します
階上は御会合、社交、御家族連れに御利用下さい
洋　食、日本料理
江戸前寿司　麺類丼類
大衆食堂　有樂
平市（聚楽館隣）

茨城から出馬した 武藤候補 樂觀許さず

全組織を擧げて猛運動展開

常炭連会長武藤武雄氏は茨城第二区から衆院戦に出馬、右社、常炭連、日鉱常連、農民組合総同盟等公認のもとに選挙事務所を日立市に置き、久慈郡の有力者高林大三氏が事務長、斎藤常磐労組長が総参謀として健斗し、武藤候補の故郷の久慈郡始め常炭連傘下組合の多い多賀方部では前総評議長の前歴が物を言つて流石が組織の団結が強く日立を中心とする工場、鉱山にも全鉱関係と連携をつけ相当喰いこんでいるが、定員三名に対し立候補者八名という乱立情勢から自由党や左社、労農候補に挾撃され組織を除いては一般に新顔とあつて農民等には名前も知られていない不利な立場にたつている そのため常磐の斎藤組合長、高萩書記長、三浦教宣部長、彰山茨城組合長らの応援弁士が次から次と疲れを知らずにしやべりまくり、中盤戦に入つてからの猛烈な舌戦は未だその類を見ないといつたスゴさをみせ苦戦乍らも善戦を続けている、これに就いて常炭連本部（平市労働会館）の留守役猪狩事務局長は次のように語つている

松井候補の票を喰うのをさけて故郷の茨城二区から出馬したワケだが何せ始めての斗いで種々不便もあるが全力を尽して戦つている、当落の見透しは未だ困難であるが苦戦であることは確かで五日第五回選挙対策委員会を開き各支部の組織を強化し公明選挙を通じて棄権をせぬ様決定し一路当選へとバク進することになつた

なお武藤氏は前総評議長、前炭労会長、前中央米価審議会委員、前選挙制度調査委員会委員、前中央労働基準審議委員として活躍し、二十四年四月には第一回日本労働使節代表として渡米し翌二十五年七月には第二回日米親善使節代表として渡米、日米両国間の友交につとめた人で昨年暮の賃上げ斗争で総評の左翼化を強く批判し炭労を脱退して常炭連を組織しその会長に推され現在に至つたものである（写真は武藤候補）

釋尊降誕 花まつり

十五日 假装白象行列

平市仏教同志会では十五日午後一時と同六時の昼夜二回公会堂日本間で釈尊降誕花まつりを行う、当日は午前十時市内九品寺から公会堂まで仮装白象行列を行うほか桐原英純、小林智興両氏の司会で花まつりの歌、小高じよ明氏のおはなし、弘源寺幻灯布教部の幻灯、光英博明師の講演、有志の演劇など多彩なレクリエーションが行われ参会者にはお供物と小旗を贈る

磐高長着任

会津高校長から磐高校長に栄転した松本懲司氏は七日午後三時二分着列車で着任した

アドバルーン 小名濱でも

小名浜町の繁華街に五日来アドバルーンが澄みきつた春の空高く揚げられハマツ子を魅了させている これは同町某商店が開店一周年を記念として華らんかなの大宣伝に出たもので花にうかれた顧客がしばし足をとどめて終戦後はじめてみるアドバルーンを眺め入つていた

竹岡氏か

勿來一小校長

年度末人事で勇退した勿来町第一小学校長石井定衛氏の後任について同町教委会では錦町小学校長竹岡伝氏に白羽の矢を立て交渉中のところ錦町教委会の転出反対に遭い難航したが、教委石城出張所では七日勿来、錦両町教委会関係者を平市公会堂に招き山田所長、高杉行政主事らが斡旋あつせんに尽力した結果竹岡伝氏の勿来一小校長就任は九分通り確定的となつた なお錦町小学校長の後任は未定で目下人選中、勿来一小は職員数二十七名、児童数千二十六名の郡下屈指の大きな学校である

相撲部を充實

常磐で猛練習を開始

常磐炭鉱では来る五月五日内郷鉱山神社境内土俵で行われる全日本勤労者相撲大会と四国で行われる国民体育大会に備え相撲部の充実を図ることになり新人を加え役員選手を次の通り決定猛練習を開始した

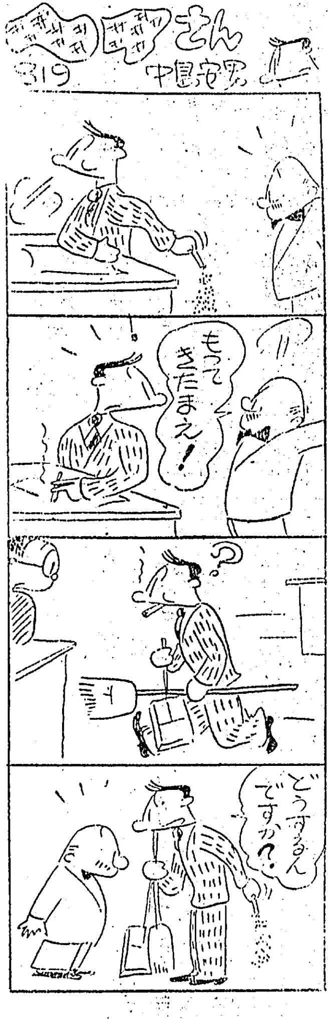
▼役員部長平川善司、監督西川朗治、マネージヤー藤原健之▼選手 西川朗治、藤原健之、堀川政光、木幡満男 我妻谷五郎 山野辺寛仁、永山孝雄、矢内勝美、須藤良一、仲川重雄、渡部五郎、須藤深、坂口熊市、鈴木一、山口俊夫

縊死者身元判る

去る三月二十九日錦町字須賀の松林内で縊死を遂げた男は千葉県銚子市中庄町一の四漁夫高根国松さん（二〇）と七日判明国松さんは全身数カ所に青刺し殊に左太腿部には『御意見無用』の青刺があつた

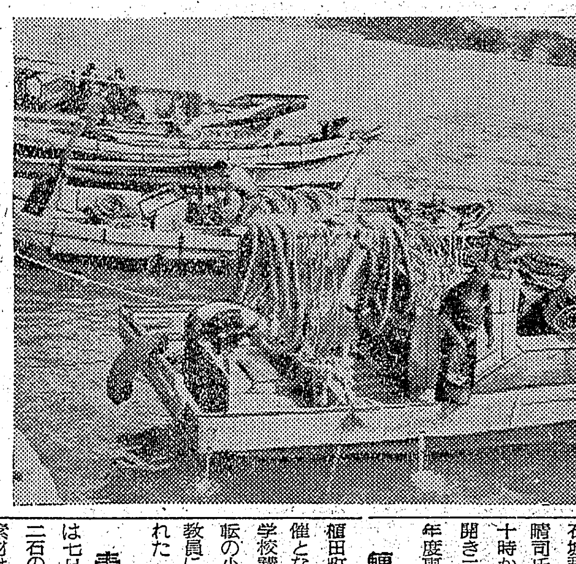
林て縊死

六日午前十時ころ赤井村高萩字山入無職白井信さん（五五）は同村西小川字相川地内の雑木林で首つり自殺した、原因は極度の神経衰弱から



小型船のシーズン

十數隻が一齊に出漁



春の静かな波をけつて小名浜港ではこゝ数日来小型着火漁船が十数隻一齊に出漁している、小型漁船のシーズンを迎えたゝめで本県沿岸のエビ漁に従事している、漁況は日帰りで約十貫から二十貫程度で海上が荒れると仕事にならないため大した稼ぎにならないと漁師たちもボヤいている、この夏の鰹漁が期待されている（写真は出漁始めた小型漁船）

學校田耕作

小名濱三小で

小名浜三小では六日午後一時からPTAの協力のもと学校田一段七畝六歩の耕作に着手し春風に吹かれながら生産増強へ共同耕作を行つた

福祉協議會

十三日總會

石城郡社会福祉協議会（会長若松晴司氏）の総会は来る十三日午前十時から石城地方事務所会議室で開き二十七年度決算報告、二十八年度事業計画、予算編成を行う

轉任教員送別會

植田町渡辺町長各校PTA会長主催となり七日午後三時から植田小学校講堂で磐農高より相馬高へ栄転の小池元吉氏ほか十数名の転任教員に対する盛大な送別会が開かれた

素材入札

植田町営林署では七日午前十時から素材二、五七二石の一般公売入札を行つた公売素材は勿来町貯木場保管

ラジオ JOHQ JOHZ

（8日）

前七・一五 スポーツ福島『今年の県下ノンプロ野球界』海野篤之
後六・〇〇 芸能クラブ 長唄 杵屋弥佐丈他
後三・〇〇 春のラジオクラブ 高校生の時間『私の愛読書』瀬谷誠一

電氣講習會

四方部で開く

東北電力平営業所主催の家庭用電気器具講習会は次の日程で開き家庭生活の電化を普及する 講師は東芝、三菱、松下の三メーカーで入場は無料

▼十三日午後一時平市公会堂▼十三日午後一時小名浜公民館▼十四日午前九時植田公民館▼十四日午前九時四倉高校

お好みの風味 小倉最中
平市田町 みよし
電六九一

うまいお酒
松の友
豊田酒造店醸
草野村 電13

平驛前で いつ何時でも お食事の出来る店
トキワや食堂
デンワ 一三九〇

ふくだやの ひな人形
平本町2丁目 電話748

ピアノ オルガン
高野文化堂
平市三丁目30米道路
電話1064番

牛肉 豚肉と ハムとソーセージ
藤越
平電1282

夢のような店 東京式百貨店

『藤越』多年の懸案が実現いたしスツキリした店になりました。未だ藤越の夢の一部しか実現出来ませんがそれでも皆さまからは奥までユツクリ見物が出来てとても感じがよいといわれます
◎新売場御案内 家具、玩具部を廃止してそのあとに婦人服地 洋品部を拡充しました

平市 小名浜
藤越

主要事業部門
本社
東京都千代田区神田鍛冶町三の一 合同ビル（国電神田駅前） 電話 代表神田（25）二四九二番
三品取引（スフ糸、人絹糸、綿糸） 合同繊維株式会社 東京都中央区日本橋芳町二の一 電話代表茅場町（66）五四三七番
証券（株式）取引 川島屋証券株式会社 東京都中央区日本橋芳町二の一 電話代表茅場町（66）二九八六番
穀物商品取引（米穀を除く一切の雑穀） 合同物産株式会社 東京都中央区日本橋芳町二の一 電話代表茅場町（66）五三一二番
耐火、耐寒、防音、防水建築材 特殊建材株式会社 本社 東京都千代田区神田鍛冶町三の一 電話神田（25）三〇九一番 工場 電話赤羽（80）四四〇一番

安全 短期 堅実な
現金株券の利殖
（案内書謹呈）
代理店募集

御案内
現金御投資 5000円以上
（株券は100株単位）
配当金一毎月払2.5分
（株券は2分）
預り期間一3カ月満期

合同経済金庫
東北総支店 仙台市国分町 TEL 4770
郡山支店 館山町130 〃 495
福島支店 中町9 〃 3345
若松支店 栄町一丁目 〃 433
平支店 五丁目4 〃 1666
中村出張所 駅前通り 〃 264